



● 私の目指す企業

株式会社大電工業

代表取締役 文倉 康博

今年も、もう半年を過ぎようとしています。2007年は「偽」で終り、2008年は倫理観の漂う良い年を過ごせるのかと思いきや、やはり「偽」が蔓延し、楽しい学園生活・社会を送っている人（子）を突如悲しい思いをさせ、又、親族間の犯罪（特に殺人）も多く、どうなってしまったのだ日本は…と心が痛みます。こんな世の中にしてしまったのは、メールなのか、学校の教育なのか、私も含め何も注意しない大人が多くなったのか、色々な原因があるはずですが。40～50年前は一人ひとりの子供部屋のある家庭が少なく、親兄弟と一日に一回は必ず接する“場”があり、その“場”で会話があり、会話の中から家族愛が生まれていたのではないのでしょうか。駄目な事を、どうして駄目なのか、親がしっかりと会話の中で子供を育てる家庭作りが、今本当に必要だと思うのは私だけでしょうか！

中小企業庁が発表した2008年版中小企業白書は、原材料価格の上昇等により中小企業を取り巻く環境が急速に悪化していることを伝えています。それによると、原油価格の上昇をゼロないしほとんど転嫁できない中小企業は9割近いとのこと。又、中小企業の廃業率が開業率を上回っていて、2006年時点での中小企業数は420万社。2004年時点の433万社と比べると13万社も減っており、企業存続を従業員と一緒に危機感を持ち、対策を講じなければなりません。

当社は1962年（昭和37年）創業以来、制御システムの専門メーカーとして、各自動車メーカーの主に塗装ライン、新聞社・製紙会社の紙庫搬送ライン、劇場の機構制御システムを国内外に納めています。

創業時は3～4人で始めましたが、今では60人のスタッフとなりました。私が3代目となりますが、創業者の後継者が無く、平成元年に現オーナーが一式引き受け、平成15年より私が代表を務めさせて頂いています。

タイトルを「私の目指す企業」としましたが、5年前に今の立場になった時、この会社で育てて頂いた恩返しは、従業員の働き甲斐のある職場・不公平の無い取り決めを目指そうと思ひ、まず核として

執行役員4名を任命し、歩む道を私も含め5人が同じ方向に進むよう意見交換を頻繁にし、決まった事は全従業員に周知出来るまでになりました。

自分が変わらなければ、行動しなければ、従業員はついては来てくれない。出来る事から始めようと、朝誰よりも早く出社し、窓を開け、すがすがしい風を入れる。感謝の心で神棚に手を合わせる。5年間続きました。これからも続けます。

見直した内容は、全て従業員優先を心掛け実施しました。内容の一つとして、パートを含め60人と年1回、時間制限なしで1対1のヒヤリングを始めました。仕事の事、対人関係の事、全てを聞いています。パートの方は結構良いアイデアを提供してくれます。又、その場で私のアドバイス・思いを直に伝えることもでき、今後も続けます。全員の意見を整理し、各部署の長に伝達し、コミュニケーションの向上・改善に役立てています。最近一読した黒田如水の「異見会」に少しは通じる所があるかと思っています。

朝礼で用いている「職場の教養」5月20日の文節より、儒学者・日本の陽明学の祖といわれた中江藤樹の教えの一つに「五事を正す」があります。「貌・言・視・聴・思」をよくすることです。

- ①「貌」は顔かたちで「愛敬の心を込めてやさしく和やかな顔つきで人と接する」
- ②「言」は言葉づかいで「相手に気持ちよく受け入れられるような話し方を心掛ける」
- ③「視」は眼差しで「愛と敬の念で温かく人を見、物を見るようにする」
- ④「聴」はよく聞くことで「話す人の気持ちになって相手の話を聞くようにする」
- ⑤「思」は思いやりで「深い愛情をもって相手を理解し、思いやりの心をかける」

というものです。古の教えですが、自分を見てまだまだ努力不足の思いです。

最後に「顧客の次に重要な従業員」と聞いた時、私は「顧客＝従業員・家族（家庭）」でなければと信じています。